

## 平成29年度第1回平塚市文化振興懇話会会議録

【日時】平成30年 2月6日（火）10:00～11:30

【会場】平塚市民センター 3階 中会議室

【出席者】 構成員7名（敬称略）：学識経験者 学校法人東海大学教授 沖野成紀  
学識経験者 平塚市文化財保護委員 片山興大  
経済界 平塚商工会議所 平野恵美子  
教育界 平塚市中学校校長会 篠生恵美子  
文化団体 平塚音楽家協会 岩崎由紀子  
文化団体 平塚市文化連盟 石川幹夫  
文化団体 （公財）平塚市まちづくり財団 石田有信  
市職員4名（事務局含む）：後藤市民部長、小菅文化・交流課長、  
奥脇文化振興担当長、荒井主査  
傍聴人：なし

### 会議次第

#### 1 開会

#### 2 市民部長あいさつ

#### 3 参加者紹介

#### 4 座長・副座長の確認

前回から引き続き、座長（沖野氏）、副座長（平野氏）の継続が確認された。

#### 5 傍聴人の確認

傍聴希望者がいなかったことを事務局から座長へ報告した。

#### 6 議題

##### （1）文化振興指針の改定

###### ○ 事務局説明要旨

- ・文化振興指針は、本市文化振興の最上位の方針であり、対象期間は平成22年度から平成28年度までと定めていた。新文化センターの検討状況も踏まえ、平成29年度から30年度までで改定作業を進めることとしている。
- ・策定当時の課題として、IT化、グローバル化への対応や、市民センター老朽化への対応なども挙げられている。また、「文化芸術基本法」や「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」も指針策定時にはなかった法律であるため、改定後の指針には盛り込んでいく。
- ・現在の文化事業は、文化の普及振興、芸術鑑賞事業、囲碁文化振興事業を公益財団法人平塚市まちづくり財団が担っており、それに加え、「小学校アウトリーチ事業」（一流のアー

ティストが小学校へ出向き、教室で子どもたちに演奏を行う) やプラネタリウムでのコンサート等の企画・実施、文化情報誌「たわわ」の発行なども市が直接行っている。それ以外では、教育委員会で策定している「奏プラン」に位置づけられる事業を実施している。

・指針改定の考え方としては、以下のとおり。

①文化振興の拠点としての新文化センターを含めた見附台整備全体と文化振興指針は不可分であると捉え、改定を進める。

②文化の可能性の幅を広げ、文化を通じたまちづくりを進めるため、パブリックコメントを実施する。

③指針改定後は、これまで策定されていなかった実施計画策定の検討に着手する。

○質問・意見等

構成員：それぞれの文化活動を行うにあたっては、そのための環境が醸成されているかが前提となる。行政のサポート体制と実際に活動を行う人とがうまくかみ合わないといけない。文化に対する思い入れが指針のなかに組み込まれていることで、文化が徐々に育まれる。子どもころから文化にふれる環境があって成り立つものなので、大人が日々の生活に追われていては、文化はなかなか根付かない。

座長：昔に比べて、大人が文化活動に費やす時間が減っているということか。

構成員：何とも言えないが、今は個人の好みが重要視されているので、選択肢をたくさん用意したうえで、そのなかから選んでいるかが重要。スマホで簡単に調べただけで、背景も踏まえず、わかった気になっているのは即物的で、見失ってしまうことも多いのではないか。それは、学校の問題でもあるし、大人の問題でもある。

座長：中学校校長会としては、どうか。

構成員：地域にお住まいのお琴の先生の演奏を聞くなど、地域の資源を教師が知り、行政の力も借りながら、授業を行っている。アウトリーチのように音楽の時間に子どもたちが実際にプロの演奏に触れ合うことも行っていただいている。そういったことで少しずつ子どもたちの可能性を伸ばしていきたいと考えている。合唱コンクールなども市民センターや中央公民館を借りて実施してきたが費用も掛かることもあるので、積極的に利用したい気持ちはあるが、なかなかうまくいかない。

座長：なかなかうまくいかないというのは。

構成員：配当された予算に限りがあることや、学校の場所によっては距離が遠いということもある。

座長：我々が文化芸術を行うには場が必要。それをサポートすることを市にもお願いしたい。

事務局：なかなか至らないところもあるが、そういったところも意識していきたい。

事務局：国や県も文化の視点を入れることを意識している。これまで指針だけだったが、実効性を伴い展開するため、実施計画を検討する。教育委員会でも奏プランも実施計画をもっているのだから、文化振興指針もそういったことで実効性を高める。御意見があれば、今日に限らず、事務局までお伝えいただきたい。

座長：それでは、各自資料をお読みいただいて、御意見があれば事務局までお願いする。

## (2) 新文化センターの検討状況

## ○ 事務局説明要旨

- ・市民センターは昭和37年に建設され、平成27年4月からホールの使用を停止している。平成29年2月に見附台周辺地区土地利用計画一改訂整備方針一を策定し、見附台整備事業のなかで新文化センターを整備することとした。
- ・見附台整備事業では、全体をAブロック（東海道本通りの北側、見附町駐車場以外のスペース）・Bブロック（見附町駐車場）・Cブロック（錦町駐車場）に分け、Bブロックに市民活動センター機能を含む、新崇善公民館を先行整備し、A・Cブロックに新文化センター、公園、商業・民間収益施設を整備する。
- ・改定整備方針では、次の4点を基本的な考え方としている。
  - ①まちの活性化に繋がる賑わいと集客を目的とする拠点を整備する。
  - ②PPP/PFI手法の活用により市の財政負担の軽減を図る。
  - ③より魅力的な施設が整備されるような手法を適用する。
  - ④手法などについて民間事業者から提案を求める。
- ・現在検討している新文化センターでの諸室・機能については以下のとおり
  - ①大ホールは、1,000席程度とし、幅広いジャンルの利用を想定し、これまでのホールの課題をクリアし、使い勝手と利便性の向上を図る。オーケストラピットの設置については、利用頻度や経費等を考慮し検討中。
  - ②多目的ホールは、防音仕様とし、客席を固定せず全面フラットを想定。
  - ③練習室は、楽器や音響設備の設置も検討中。気軽に立ち寄っていただけるよう、貸出時間や料金設定にも工夫をする。
  - ④創作室・会議室は、これまでどおり市民の文化芸術活動を後押しするとともに、創作室には、市民センター利用者の声を踏まえ、洗い場を設置する。
  - ⑤エントランスは単なる待合スペースではなく、日常的に文化芸術に触れていただける仕掛けや駅周辺イベントとの連携により、人が集いにぎわうスペースとするとともに、囲碁についての展示や教室等も行う。
  - ⑥その他の機能としては、バリアフリーやユニバーサルデザインの採用、子育て支援設備・機能の充実、利用時間帯や料金設定など運用面での工夫を行う。
  - ⑦市民センター閉館後の文化施策の推進にあたり、文化事業を担う施設の管理運営者と文化芸術団体との連携、協力のための仕組みの導入についても検討する。
- ・新文化センターの諸室・機能について、ホールの専門家も交え検討しているが、懇話会のみなさまにも御意見いただきたい。
- ・最後に、市民センター閉館から新文化センター開館までのスケジュールについて
  - ①平成30年の年末ごろに市民センター閉館
  - ②閉館周知は、平成30年3月ごろ見附台整備の実施方針策定と同時に行う。
  - ③閉館後、物品の移転・廃棄を行い、平成31年度に市民センター解体、平成32年度から新文化センター建設
  - ④平成33年度中に供用開始予定

## ○ 質問・意見等

構成員：生徒数の多い中学校では生徒数が700人ほど。合唱コンクール等で中央公民館

を使用するが、全校生徒と保護者が入れない。時間帯を分けたり、保護者を入れ替えたりしている。新文化センターの1,000席というのは少ないのではないか。

子どもたちがホールを使うことは、将来への意識付けとして大切なことと考える。学校が活用することも踏まえて席数を考えていただきたい。

また、市内の教師全員の集まりも中央公民館で行っているが、ホールに入りきれないので午前午後に分けており、負担になっている。

構成員：大ホールの席数は優れた舞台芸術を実演するためにも非常に重要。より芸術性の高いアーティストを呼ぶことは1,000席ではできない現実がある。様々な事情もあると思うが、要望としてお願いしたい。

また、エントランスの項目で囲碁の関係が触れられているが、市民センターには星のプラザという拠点があることで、木谷道場の関係の方々や日本棋院との関係性ができている。できるだけ充実した囲碁の環境を整えていただきたい。

事務局：エントランスは多目的に使えるよう、あまり仕切らず使用することを検討している。そこで囲碁の教室を開くこと、展示物の展示方法についても検討している。平塚市にとって、囲碁は文化資源であり、木谷實先生の功績も大きい。配慮して検討する。

構成員：ホール席数は、市民センターの1,400席と同等にはして欲しい。1,000席では少ない。ある程度、席数が多い方がホールの利用頻度は増すと考える。

構成員：私は1,400席でも少ないと思っている。2,000席くらいは欲しい。1,400席でのデメリットは何かあったのか。

また、音楽を聴くには一番心地よいという理由から600席という案もあったようだが、それではとても足りない。

事務局：600席というのはいつごろの話か。

構成員：2年以上前、知人が委員になっていた会議で話題として出たと聞いた。

事務局：新文化センターの基本構想では、大ホールが1,200席、小ホールが300～400席程度で検討していた。その頃の話ではないか。

その後、使い勝手や費用面も考慮し、コンパクトなものを検討した結果、現在の1,000席程度になっている。これは単純にホールを作るのではなく、舞台の広さ、楽屋との動線などに配慮し、必要な時期にメンテナンスが行える規模として検討している。

構成員：オーケストラピットを作る前提でこの席数になっているのか。

事務局：オーケストラピットの設置については、設置によって席数が減ってしまうこともあり、色々なご意見を頂きながら現在検討中です。

構成員：今作るのであれば、オーケストラピットがないというのはおかしい。作らないというのは残念だ。設置を強く希望する。

事務局：みなさんから、そういった強いご要望をいただきたい。限られたスペースと費用の中で、法律の制約もあり、難しい部分もあるが、そういったご意見は、我々の後押しにもなる。

構成員：オーケストラピットは子どもたちに本物の芸術を見せるために必要。ぜひ検討していただきたい。

構成員：多目的ホールはどれくらいのスペースを考えているのか。

事務局：多目的ホールの広さは、大ホールの席数等にも影響するが、席にして200席程度は持ちたいと考えている。

構成員：それだけの広さがあればレセプションも行えて、他にも用途があると思うので、ぜひ作っていただきたい。

構成員：市民が主催するイベントで使うには、200席くらいのスペースが一番使いやすいと聞く。これまで平塚にはそういうスペースがなかったので、ぜひ作っていただきたい。

構成員：舞踊、民謡など文化連盟の団体が気持ちよく使うことができ、使い勝手がよいのは、200～300席の広さだと考えている。観る人のための大ホール、演ずる人のための小ホールという視点でも考えていただきたい。市民の芸術参加ということを考えると、多目的ホールにどれだけ機能を含められるかが知恵の出どころである。

座長：資料を持ってきたので見ていただきたい。

(資料を構成員及び事務局に配布)

これは、5～6年前から1月末に東海大学の芸術学科が平塚市美術館で行っている卒展のパンフレット。この卒展に合わせて、音楽学課程のコンサートも一日行っている。パンフレットの左側が卒業制作展示のリストで、右側が学生によるコンサートのプログラム。

この企画の最初に私がイメージしたのは、最近欧米では美術館の美術品の展示に囲まれてコンサートをするという企画で、これをやりたかった。しかし、日本の美術館の多くでは、美術館の中で音を出すということが禁じられている。そのため、この卒展のコンサートもミュージアムホールという美術品と隔離された別部屋で行っている。

今回の多目的ホールは、防音仕様としてある。ここに美術品を展示し、それに囲まれてコンサートをすることができれば、当初私がイメージしたものに近くなるのではないかと。大きさや席数も大事だが、そういった設備面も考えていただけるとありがたい。

構成員：一般論で言えば、それ相応の設備、ホールがなければ、それ相応に演じることもできない。これまでの話の中で、1,000席では足りないという話ばかりで、充分だという意見がない。懇話会としては、1,000席を上回った席数が必要だという共通認識ができたのではないかと。1,200～1,400くらいの席数を目指して後押しをしていかないと、平塚市の文化は廃れてしまう。

もう一点としては、この見附台へのアクセスの問題がある。まちづくりとしてJRからのアクセス、見附台までの道のりも文化を誇れるようなものを考えなければいけない。大きな話になるが、これから始まることなので、大きなビジョンを持ってまちづくりをして欲しい。

崇善公民館の保存についても文化財保護委員会のなかで話題になっている。宿場があったことや、戦争体験や七夕などのコンセプトがある。それを活かして、新文化センターとの新旧の調和を図ってもらいたい。市外から東海道の宿場町跡を見に

来る人も多いが、碑があるだけではイメージもわからない。歴史に触れながら、見附台周辺を散策するという観点も必要だ。

構成員：崇善公民館は解体することが決定しているのか。平塚にはあまり古い建物がないのでもったいないという気持ちもある。

事務局：そういう方針と聞いている。解体して記録保存とする。

事務局：様々のご意見を頂いているが、新文化センターでは、人が集い、にぎわうエントランスの活用を考えている。そういったところでもご意見を頂きたい。

構成員：先ほどのアクセスの話で、相模線を茅ヶ崎から平塚に延ばすことができれば、北からの人の流れができてくると思う。

座長：うちの学生に、常に人が集うホールにするためには何が必要かを聞くと、カフェとアクセスということだった。この辺を解決すると人が集うのではないか。意見も出尽くしたようなので、議事を終了する。

## 7 事務局説明

### ○ 事務局説明要旨

- ・来年度の懇話会は、新文化センター整備事業者の募集のために市が定める要求水準書の策定にあたり、みなさまにご意見を頂戴したい。要求水準書の公表が夏ごろとなるため、来年度の早い段階での開催を考えている。また、今年12月頃に文化振指針のパブリックコメントを実施する予定であるため、そのタイミングでも懇話会の開催を考えている。
- ・平成30年度には、懇話会の構成員及び推薦団体の見直しを検討している。今年度末までに各推薦団体から新たな構成員を推薦いただくよう手続きを行う。

## 8 閉会